

第21回「櫻田記念」全日本9人制バレーボール実業団選抜男女優勝大会

(日韓国際親善交流試合)

準決勝戦評

$$\underline{\text{富士通 (兵庫)}} \quad 2 \quad \left\{ \begin{array}{l} 21-16 \\ \\ 21-14 \end{array} \right\} \quad 0 \quad \underline{\text{東北リコー (宮城)}}$$

主審 坪 誠 (千葉)

副審 田中 哲 (東京)

記録 櫻井 秀佐 (東京)

戦評 米田 聡也 (静岡)

第一セット 東北リコーのサーブから始まったゲームは、序盤より富士通の粘りのレシーブから③林、⑬東のスパイク、⑤川島のサービスエースなどで、12対6までリードする。一方の東北リコーも時間差攻撃などで応戦するも、終始リードを保ち続ける。富士通に押切られる形で21対16で富士通が一セット目を先取。

第二セット、二セット目を取ってタイブレークに持込みたい東北リコーは、⑳安重のサーブで序盤リードするが、味方のスパイクミス等で富士通に追いつかれる。中盤は一進一退でゲームは進むが、終盤に入り、③林、⑬東の両エースのスパイク、流れの中でのセンター攻撃がおもしろい様に決まり、最後はライトエースの⑬東のスパイクが決まり、21対14で富士通が勝ち、二セット連取で富士通が東北リコーを下した。